

## 上吉影貴船神社　—本殿に残る龍の彫刻—

貴船神社は、小美玉温泉ごとぶきに程近い、県道紅葉石岡線上吉影北の交差点から西側に入った住宅や畠地が広がる中に鎮座しています。大永6年（1526）の棟札には、貴船神社の氏子であった開城主井坂修理助が大旦那として奉納したと記載されています。当初は高房大明神を祀っていましたが、元禄8年（1695）に貴船高房大明神と改まり、同時に建葉槌命が合祀されました。元文5年（1740）に貴船大明神となり、以後貴船神社として現在に至っています。また、かつては近郷四十八ヶ村の総社として、四十八社祭が執り行われていました。

ところで、題名にある竜の彫刻は本殿の側壁に彫られたもので、江戸後期～明治前期にかけて活躍した彫刻家後藤縫之助の手によるものです。



縫之助の経歴を振り返ると、文政8年（1825）下總国猿島郡猫実村（坂東市）に生まれ、15歳の時に笠間町で寺社建築にたずさわる宮大工の後藤茂右衛門に弟子入り、修行を積んだのち24歳で独立して後藤縫之助と名乗ることを許されました。

安政4年（1857）、師匠成田山新勝寺（千葉県成田市）の本堂彫刻を担当しました。同6年より笠間稻荷神社の本殿造営がはじまり、縫之助は彫刻部門の中心として、本殿向拝に「三頭八方睨みの龍」を彫りました。丸彫りという、

縫之助の経歴を振り返ると、文政8年（1825）下總国猿島郡猫実村（坂東市）に生まれ、15歳の時に笠間町で寺社建築にたずさわる宮大工の後藤茂右衛門に弟子入り、修行を積んだのち24歳で独立して後藤縫之助と名乗ることを許されました。

その後、内務卿大久保利通の名で、縫之助は花紋賞銅メダルと「縫殿之助」の称号を与えられました。

貴船神社本殿の龍の彫刻は、古社名刹の彫刻を手がけた後藤縫之助の作品の一つとして、現在まで大切に受け継がれています。

